

むし歯のない子どもの表彰式



むし歯のない子どもの表彰式が11月19日、総合福祉センターで開かれ、平成29年4月2日から平成30年4月1日までに生まれた40人のうち、32人が健康な歯に認定されました。表彰式は密を防ぐために2回に分けて行われ、27人が出席しました。子どもたちは、住民課の宮本参事から賞状と記念品を受け取りました。



厚真中学校で防災授業

厚真中学校で11月19日、全校生対象の防災学習が開かれ、生徒たちは学校独自の「防災10か条」を具体化するためにアイデアを出し合いました。

同校は、これまで、「連絡方法の確認」や「情報の収集」など「防災10か条」を考案。この日は全校生が縦割りの10班に分かれ、防災10か条の具体的な内容について話し合いました。講師に招かれた町教育委員会の宮下桂参事と町防災アドバイザーで東北大学助教の定池祐季さんが、生徒たちにアドバイスしました。

意見発表では、「給食のトレイに防災マップを貼り付ける」や「防災検定の創設」、「避難所を巡るスタンプラリーの開催」など斬新なアイデアが寄せられました。



グループワークで意見を交わす生徒たち



施設を見学する地域住民たち

厚北地域防災コミュニティセンター 建築現場見学会

富里地区に建設している「厚北地域防災コミュニティセンターならやま」の地域住民向けの施設見学会が、11月20日に行われました。

施設は、高丘・富里・吉野3地区の集会場と防災拠点施設を兼ねています。木造平屋建て約324㎡で、災害時には避難場所として活用できるよう防災備蓄倉庫や非常用発電設備を配置しています。

被災3町のオンライン座談会開催



座談会で事例発表する村上さん

胆振総合振興局主催のオンライン座談会「胆振東部地震から3年、被災地の現在とこれから」が11月24日開かれ、被災3町の住民組織の代表ら3人が事例発表しました。

座談会は、被災地からの情報発信を通じて震災の記憶を後世に伝え、復興の加速を図るのが目的です。厚真町からは住民活動団体「つむぎ」代表の村上朋子さんが事例を発表し、3町長や道内外の住民も参加しました。

村上さんは「被災者支援を通して」と題し、町社会福祉協議会の職員として災害ボランティアセンターの運営などに関わり、退職後も住民の立場から任意団体を立ち上げて人との交流を通じたコミュニティづくりに取り組む様子などを紹介。村上さんは「住民が主体的に活動できる場所づくりと情報共有を心がけながら共に取り組むことで、人のつながりは大きく広がりました。人を介した一つ一つの活動の先に、厚真町の復興は見えてきます」と結び、3町長を含め共感を集めました。